

## 市道山路深瀬線の 災害復旧工事始まる



平成23年9月に襲来した台風12号の影響で、橋の一部が流失した市道山路深瀬線（中央橋）の復旧工事が、11月から本格的に始まりました。中央橋は、地元住民の生活道や通学路であることから、市では早期の復旧が必要と判断。国に対して公共土木施設災害復旧事業の申請を行い、同年10月25日の災害査定において事業採択されました。

工事費は約9,700万円で、平成25年3月末の完成を予定しています。

## 図書館まつりで「音楽影絵」を上演 親子の触れ合いや本を読むきっかけに



秋めく10月27日、コスモホールで「あなん図書館まつり2012」が開催されました。催しでは、ドルチェ・ヴィータによる生演奏や、影絵劇団「かしの樹」による音楽影絵劇「100万回生きたねこ」が上演され、訪れた約600人の親子は、照明効果や遠近法を駆使したカラフルな影絵を楽しみながら、温かみのある生の語りやピアノ・チェロ・バイオリンの美しい音色に耳を澄ませています。影絵劇団「かしの樹」の岡田 允さんは、「親子のふれあいや、本を読むきっかけにしてほしいです。」と話していました。

## 成人大学受講生が神戸市で 防災研修



第36回成人大学の受講生75人が、阪神淡路大震災の記録や教訓を学び防災の大切さについて考えようと、10月21日、「人と防災未来センター（神戸市）」などを見学しました。震災追体験フロアで地震の凄まじさを体感した矢野秀敏さん（橘町）は、「普段から減災や耐震化などについて考えておくことが大切。発災当時の体験談をお聞きし、「備えあれば憂い無し」の言葉が印象に残りました。」と話していました。今年度の講座は、平成25年2月21日まで残り4回開催される予定です。

## 防犯灯と海拔表示板が 寄贈される



明るく安全・安心なまちづくりに貢献する「よんでんグループふれあい旬間」の一環として、四国電力株徳島支店阿南営業所様からLED防犯灯20灯と海拔表示板15基が寄贈されました。10月23日に市長公室で行われた寄贈式で、阿南営業所所長の堤 恒敏様から岩浅市長に目録が手渡されました。「津波に注意」と書かれた海拔表示板は、市内15カ所の電柱に設置される予定です。

また、市内の防犯灯数は、寄贈された20灯を含め5,869灯になりました。ご寄贈ありがとうございました。

## お笑いコンビが恋のキューピッド役！ キャンパスボーイが婚活応援大使に



徳島県住みます芸人「キャンパスボーイ」（右・西浦直之（25歳）・清水啓史（24歳））が、「阿南de愛隊」の婚活応援大使を務めることになり、11月5日、市長公室で任命式が行われました。吉本興業所属のお笑い芸人が市の婚活を応援するのは全国で2例目。県内では初めてです。お二人は、「こんな大役を引き受けるのは初めてで少し緊張していますが、キューピット役には自信があります。お笑いで阿南市の婚活を盛り上げていきましょう。」と意気込みを語っていました。初仕事は12月24日に牛岐城趾公園で行われるクリスマスイベントの司会。人気上昇中のお笑いコンビが恋愛成就をどう演出してくれるのか、今後の活躍に期待が高まります。

## 徳島県の最終的な津波被害予測による 地震・津波対策を協議



10月31日に徳島県から「徳島県の最終的な津波浸水予想」が公表されたことを受け、市ではさっそく地震・津波対策会議を開き、津波浸水想定に考慮した諸条件や拡大した浸水エリアなどを確認しました。最大規模として想定された津波浸水予測は、今年8月に内閣府が想定した11ケースのうち、徳島県にもっとも影響する4ケースの最大値を抽出し、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合の浸水域や浸水深が想定されています。市では、新想定の内容をさらに精査し、津波避難マニュアルや津波ハザードマップの策定を本格的に進めることにしています。なお、県から公表された資料は、支所、住民センター、公民館に備え付けていますので、ご覧ください。

## 心温まる特別な一日に



適応指導教室「ふれあい学級」の秋の祭典「きて、みて、ふれあい祭」が、11月2日、阿南市社会福祉会館で開催され、作品展や演奏会などが催されました。会場には、平成23・24年度の活動を写真で振り返るコーナーや書道、手芸品などの展示コーナーが設けられたほか、児童・生徒が作ったかわいらしい手芸品が出品されたバザーも行われました。また、フラダンスやココリナなどの演奏会や児童・生徒による皿回しもあり、訪れた人々は温かい拍手を送っていました。「思ったより多くの方が見に来てくれてうれしかった。」と児童・生徒の皆さん。指導主任の日根美野子さんは、「自信と夢をもってこれからの人生を楽しく歩んでいきましょう。」と、温かいまなざしを送っていました。

## プロに学べ！山口座木偶保存会が 三番叟を本格的に稽古



伝統芸能「三番叟」の保存活動に取り組む山口座木偶保存会の皆さんが、人形遣いの基本や精神を学び、その魅力を後世に伝えようと、人形遣いの勘緑さん（三好市出身・大阪市在住）から指導を受けることになり、11月14日、山口コミュニティセンターで初稽古が行われました。稽古は2時間近く行われ、日本の伝統芸能特有の足運びや身のさばき方、人形の見せ方や動かし方など、基本的な所作を学びました。同保存会会長の多田康文さん（72歳）は、「脈々と受け継がれてきた伝統芸能をよりいい形で後世に受け継ぎたい。本格的な指導を受けられることは会員のやりがいにもつながります。」と抱負を語っていました。